

4. 4 電子出版の動向

丸善（株）店舗事業部 ネットビジネス部長
松田和之

1.はじめに

書籍・雑誌の販売額は年間2兆円を越すものの7年連続前年割れとなっており、返品率においても書籍が37.3%、雑誌が33.2%と大きな改善は見られない。[1] たしかに、出版は国の文化の核であり、衰退も無ければ、新たな黄金時代もないと言われているが、出版ビジネスの将来像をどのように描くことができるのであろうか。話題性のみ先行している感の強い電子出版ビジネスは成功するのか否か。はたして、電子出版物は読者を満足させ、業界を元気付ける事ができるのだろうか。

電子出版物が書籍として納本制度の対象となったのは平成12年であるが、「電子出版」あるいは「電子出版物」という言葉は決して新しいキーワードではない。情報を電子的媒体等を使用して公表することを「電子出版」、電子出版によって公表されたものを「電子出版物」[2]と定義した現在の納本制度は、「国立国会図書館法の一部を改正する法律案」として平成12年3月31日に成立し、形態別として「ネットワーク系電子出版物」とFD、CD-ROM、DVD等の有形の媒体に情報を記録した「パッケージ系電子出版物」に区分された。現在は平成12年10月1日以降に発行された「パッケージ系電子出版物」のみが国会図書館への納入対象とされている。

「ネットワーク系電子出版物」は現行納本制度の修正ではなく新たな制度により収集すべきこと、新制度による収集の範囲と方法に関しては、インターネット上の学術的な出版物及び国・地方公共団体が発行する出版物を優先的に対象とし、発行者等の通知又は送信に基づいて行うのが妥当であること（ただし、発行者の経済的損失や技術的問題にかんがみ、データベース及び商業的に発行されている電子ジャーナルは、別途、検討が必要）と納本制度審議会では報告しており、平成16年内に最終答申をとりまとめる予定とのことである。[3]

近年の情報流通基盤を鑑みると、情報社会の基盤が「紙」から「デジタル・コンテンツ」に速度を上げて移行しつつある。出版におけるDTP(Desk Top Publishing)とネットワークの融合による「PaperからScreenへ」と展開する情報の生産流通過程の変革は、従来「著者」と「読者」の間に介在する既存の「出版社」、「取次店」、「書店」、「図書館」などにおける生産流通基盤に対して、伝統的なサービスを包含しつつも新たな機能やサービス形態の提供を余儀なくさせている。

大学図書館においては、電子出版物の購読とアクセス環境の整備が充実されつつある。

「パッケージ系電子出版物」といえども、その利用形態としてはイントラネットやLAN等のネットワーク経由であることが多い。学術雑誌は電子ジャーナルとしての購読形態が定着し、コンシューマでの購読機関も年々多くなっている。電子出版物と既存書籍・雑誌との共存のもと、デジタル情報化社会(知識創発型社会 [4])に向けた、新たな図書館運営が必要とされている。

一方、出版業界では新たな潮流を取込むと共に、業界が抱える複雑な流通問題の解消に期待を寄せつつ、長年培ったビジネスプロセス、物理的資産、歴史的資産、情報力等を核とした新たなビジネス・スタイルを構築しつつある。電子辞書は売上げを急激に伸ばし、松下電器産業㈱の「シグマブック」やソニー㈱の「リブリエ」など電子書籍用携帯端末は市場の話題を集めている。

電子出版物は現実的に利便性が有ると読者に認めてもらえない限り、市場には受け入れられないであろう。多くの個別読者を満足させることのできるコンテンツや利用環境を提供する事が可能になってこそ、電子出版物は普及する。書籍の利用環境の変化は活字文化そのものの変化をも意味し、さらには、新たな生活習慣を生み出すことである。

生活習慣の課題、財政的課題、制度的課題、技術的課題から電子出版の現状を説明し今後の動向について考察する。

2. 情報リテラシー

2-1 情報の入手と共有

2-2 流通プロセスの高速化・多様化

2-3 一次情報、二次情報、リンク情報

2-4 ブロードバンド・サービス

3. 紙と印刷と出版業界

3-1 出版流通過程

3-2 Paper & Screen

3-3 マイナス成長の現実

4. 電子出版物の特徴

4-1 購読、入手、利用形態

4-2 メリット、デメリット

5. 出版社の挑戦

5-1 Print On Demand

5-2 電子出版（既存タイトルの電子版と新規出版）

5-3 Copyright in an Electronic World

5-4 価格政策

6. 海外電子出版の動向

6-1 e-Book & e-Textbook & Audio e-Book

6-2 学協会、大学出版局、商業出版社

7. 国内電子出版の動向

- 7-1 パッケージ系
- 7-2 ネットワーク系
- 7-3 クリック & モバイル

- 8. 電子出版物活用への社会的合意の必要性
 - 8-1 権利の尊重
 - 8-2 個人情報保護
 - 8-3 有償提供への社会的合意 — 無償提供

- 9. 図書館における電子出版物の活用
 - 9-1 CRM (Customer Relationship Management)
 - 9-2 出版界と図書館との共存体制
 - 9-3 知的インフラの構築

- 参考資料 [1] (社)全国出版協会 出版科学研究所発行 出版月報 2004 年月 3号
- [2] 「電磁的記録(電子的方法、磁気的方法その他の人の知覚によっては認識することができない方法によって作られた記録をいう)として複製された著作物」
- [3] http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/deposit_council_book.html
- [4] <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/010122gaiyou.html>
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/040206honbun.html>